

※「修正の考え方欄」の番号については資料「美術館運営ビジョン案策定について」に記載されている項目番号

	現行ビジョン	次期ビジョン	修正の考え方
はじめに ビジョン 作成にあ たって	<u>このビジョンを策定している令和2年(2020年)、世界は新型コロナウイルス禍の真ただ中にあり、私たちは、これまでの営みやコミュニケーションなどとは異なる新しい生活のありようを問われています。</u> 超高齢社会の進展やグローバル化はもちろん、 <u>コロナ禍による著しく変化していく今の社会経済情勢の中では、</u> 自ら考え判断し、行動できる適応力が必要です。	新型コロナウイルス <u>感染拡大を契機に、</u> 超高齢社会の進展やグローバル化といった従来言われていた社会情勢の変化に加えて、 <u>新しい生活様式への対応も求められるなど、私たちに</u> は自ら考え判断し、行動できる適応力が必要です。	・新型コロナウイルスに関連する社会情勢の変化を反映 (コロナ化への対応からアフターコロナの社会情勢の変化に対する対応に記載内容を変更：3①④)
I ビジ ョン策定の 背景・及 び必要性	(前略) 新型コロナウイルスへの対応については、 <u>感染防止対策のみに止まらず、今後の美術館や展覧会のあり方そのものについても大きな見直しを迫られています。</u> このように美術館を取り巻く環境が大きく変化する中、当館は、いつの時代も変わらない美術館本来の役割と社会の変化やニーズに応えられる役割とを常に意識しながら、 <u>新たなビジョンを策定しており、運営のあり方を見直していきます。</u>	(前略) 新型コロナウイルス感染拡大を <u>契機に、ICTを活用した鑑賞スタイルなど、新たな可能性も示されました。</u> このように美術館を取り巻く環境が大きく変化する中、当館は、いつの時代も変わらない美術館本来の役割と社会の変化やニーズに応えられる役割とを常に意識しながら、 <u>令和2年度(2020年度)にビジョンを策定しております。今回は、このビジョンの実施期間終了に伴い、基本理念、運営の基本方針を踏襲しながら、今後4年間を実施期間として、社会情勢の変化なども反映したものを策定しました。</u>	・新型コロナウイルスに関連する社会情勢の変化を反映 (ICTの活用の進展など：3①) ・今回のビジョンの方向性、実施期間を記載。
II ビジ ョン実施推 進期間	<u>令和2年度(2019年度)～令和5年度(2023年度)</u>	<u>令和6年度(2024年度)～令和9年度(2027年度)</u>	
IV 運営の 基本方針			
1 展覧 会・教育 普及	子どもの頃から豊かな感性を育み、多様な人々が集い交流する美術館	→	

	現行ビジョン	次期ビジョン	修正の考え方
(1) 展覧会活動	<p>○ 総合美術館としての展覧会の充実</p> <p>来館者や県民へのアンケート等により把握した県民ニーズに基づき、<u>西洋絵画展など集客性のある巡回展や、熊本ゆかりの美術品等をテーマとした当館独自の自主企画展、永青文庫や当館所蔵美術品のコレクション展など、多様な分野の展覧会をバランスよく開催します。</u></p>	<p>○ 総合美術館としての展覧会の充実</p> <p>来館者や県民へのアンケート等により把握した県民のニーズ<u>あるいは社会状況から必要と考えられる当館からの提案に基づき、集客性のある展覧会や、地域文化の新たな魅力を引き出す当館独自の自主企画展、永青文庫や当館所蔵美術品のコレクション展など、多様な分野の展覧会をバランスよく開催します。</u></p>	<p>・県民のニーズだけでなく、当館が必要と考えることにより展覧会を開催することの追記等、表現の整理</p>
	<p>○ <u>県民ニーズに対応した鑑賞機会の充実</u></p> <p><u>展覧会に合わせて、ギャラリートークや美術館の舞台裏を紹介するバックヤードツアー、障がいの有無に関わらず楽しめる鑑賞デー、くまもと教育の日の親子無料デーなど、ニーズに対応したイベントを開催し、参加者が交流しながら、展覧会を楽しめる機会を拡充します。</u></p>	<p>○ <u>県民の芸術への関心を高める鑑賞機会の充実</u></p> <p><u>彫刻展示、装飾古墳室、浜田知明版画展室等の無料展示スペースの鑑賞の広報、ギャラリートークや手話通訳付き特別開館日、くまもと教育の日の親子無料デーの開催など、参加者が交流しながら、展覧会を楽しめる機会を拡充に向け取り組みます。</u></p>	<p>・県民ニーズへの対応については「総合美術館としての展覧会の充実」に記載されているため、重複部分として削除し、芸術への関心を高める取り組みとして位置づけ整理したうえで、具体的な記述内容に修正</p>
	<p>○ グローバル化への対応</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、一時期落ち込んでいる海外等からの来館者も中期的には回復し、グローバル化の流れは今後更に進むと考えられます。</p> <p>これに対応し、国内外からの観光客等に、熊本城内にある当館を楽しんでもらえるよう、<u>展覧会の概要や展示品解説等の多言語化、当館ホームページの外国語情報の充実などを推進します。</u></p>	<p>○ グローバル化、<u>多文化共生社会</u>への対応</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、一時期落ち込んでいる海外等からの来館者も中期的には回復し、グローバル化の流れは今後更に進むと考えられます。</p> <p>これに対応し、国内外からの観光客等に、熊本城内にある当館を<u>より</u>楽しんでもらえるよう、<u>スマートフォンの翻訳アプリの活用によって美術作品の解説文を母国語に翻訳するための解説撮影を可能とするなど、ICT機器の新たな機能の活用にも対応していきます。</u></p> <p><u>また、芸術作品の鑑賞を通じて、作品が生み出された文化的・歴史的背景への来館者の関心を高めることで、自らと異なる文化・社会的背景、価値観を持つ人々への関心・理解・共感につなげていくことにより、多文化共生社会実現の一助となるよう努めます。</u></p>	<p>・ICT機器の発達と利用形態の変化による修正（3④）</p> <p>・芸術作品の鑑賞を異文化の理解を通じた多文化共生社会実現に向けた取り組みとして追記（2①②⑤）</p>
	<p>○ withコロナ・postコロナ社会への対応</p> <p>来館者が安全・安心に展覧会を楽しめるよう、検温やマスク・手指消毒等の対策を状況に応じて実施するとともに、展覧会のあり方について関係機関と連携して検討・協議し、必要な見直しを行っていきます。</p>	-	<p>・新型コロナウイルスが他の感染症と同等に取り扱われることとなったため、個別の取組みとしては削除</p>

	現行ビジョン	次期ビジョン	修正の考え方
(2) 教育普及活動 ①学校や地域と連携した活動の充実	○ 鑑賞・体験活動 巡回展、ミュージアムバス、出前授業や <u>遠隔授業</u> などを行います。	○ 鑑賞・体験活動 巡回展、ミュージアムバス、出前授業や <u>学校関係者等むけにアートカード鑑賞教育出前講座</u> などを行います。	・具体的な取り組み内容に修正
	○ 活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援 <u>教育現場のニーズに合った</u> 学習シートや見学ルートマップ等、美術館を活用するツールや活用プログラムなどの提案や情報提供、広報活動を積極的に行い、美術学習への支援と美術館の利用促進を行います。	○ <u>学校団体観覧</u> 活用プログラム等の提案・情報提供による美術学習支援 <u>教育現場の声に合わせた</u> 学習シートや見学ルートマップ等、美術館を活用するツールや活用プログラムなどの提案や情報提供、広報活動を積極的に行い、美術学習への支援と美術館の利用促進を行います。	・具体的な取り組み内容の記載など表現の整理
②幅広い年齢層が美術に親しむための取組み	幅広い年齢層が美術に親しみ、美術をより身近なものとして楽しめるよう展示の工夫、講演会やセミナー、美術館サポートボランティアとの協働によるイベント、出張講座等のアウトリーチ活動などの充実を図ります。	幅広い年齢層が美術に親しみ、美術をより身近なものとして楽しめるよう展示の工夫、 <u>子ども向けワークショップから大人向け</u> 講演会やセミナー、美術館サポートボランティアとの協働によるイベント、出張講座等のアウトリーチ活動などの充実を図ります。	・具体的な取り組み内容に修正
	○ <u>美術図書や資料の閲覧コーナーの設置</u> <u>県民の美術に関する学習・鑑賞・創作活動を支援するため、美術館サポートボランティアとの協働により、当館の研究紀要をはじめとした美術図書や資料等を自由に閲覧できる環境づくりに努めます。</u>	○ <u>美術館所有図書を活用した普及啓発</u> <u>複数所有する図書や過去の展覧会の図録などを活用し、閲覧などにより、美術に関心を持ち、鑑賞を深めてもらえるような環境づくりに努めます。</u>	・館内のレイアウト等、施設の改修が不要で、実現可能な取り組み内容に表現を修正
	○ 創作・発表の場としての支援活動 <u>県民の創作活動を支援するための発表の場を提供します。また、障がいの有無に関わらず、自立した活動を支援するため、アール・ブリュット展覧会や手で見える造形展などを支援します。</u>	○ 創作・発表の場としての支援活動 <u>世代の違いや障がいの有無に関わらず、県民の優れた創作活動を支援するための発表の場を提供します。</u>	・より幅広い層の創作活動を支援する表現として整理

	現行ビジョン	次期ビジョン	修正の考え方
	○ 美術館友の会・サポートボランティアとの連携 美術館友の会及びサポートボランティアと協働し、 <u>展覧会イベントや教育普及活動等の充実を図ります。また、ボランティア等の学びを支援するとともに活動の成果を積極的に発信します。</u>	○ 美術館友の会・サポートボランティアとの連携 美術館友の会と連携し、 <u>展覧会情報の広報を行います。また、サポートボランティアと連携し、美術資料の収集、図書の管理を継続的に行うとともに、展覧会イベントや教育普及活動等の充実を図ります。</u>	・取組の実態に即した表現に修正
	<u>③ インターネット美術館の推進</u>	<u>③ ホームページやSNS等の活用推進</u>	・ICT機器の利用実態の変化に合わせて修正（3①）
	展覧会や収蔵品情報などを美術館のホームページやSNS等で配信するなど、インターネットを介して、いつでもどこにいても美術館を楽しめる取組みを推進するとともに、 <u>本物を観たいという来館動機へつなげていきます。</u> また、当館の収蔵品情報について、学校での鑑賞教育の場や個人の美術学習等に広く活用することを <u>ができるよう収蔵品のデータベース化を推進するとともに、リモートによる鑑賞教育にも取り組んでいきます。</u>	展覧会や <u>関連イベント情報</u> などを美術館のホームページやSNS等で配信するなど、インターネットを介し、 <u>美術館活動に関する情報へのアクセシビリティ向上に努めるとともに、いつでもどこにいても美術館を楽しむためのコンテンツの配信によって、</u> 本物を観たいという来館動機へつなげていきます。 また、 <u>データベース化しホームページで公開している</u> 当館の収蔵品情報について、学校での鑑賞教育の場や個人の美術学習等に広く活用することを <u>呼び掛け、ホームページに掲載した鑑賞ツールを事前学習や事後学習に役立てます。</u>	・具体的な内容に修正 ・改正博物館法の規定により美術館の事業として追記されたデジタルアーカイブ化に関する取り組みとして完了した所蔵品情報のデータベース化とその活用について記載（1②）
2【美術品等の収集・保管・研究】	熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、熊本の宝として未来に継承する美術館	熊本ゆかりの美術品等を収集・保管・調査研究し、 <u>永青文庫所蔵品をはじめとする</u> 熊本の宝として未来に継承する美術館	・くまもと新時代共創総合戦略「施策4 スポーツ、観光、文化芸術の振興」の表現により永青文庫を追記（2④）
	永青文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の散逸を防ぎ、調査研究し、熊本の宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策を推進します。	永青文庫や熊本ゆかりの優れた美術品等の散逸を防ぎ、調査研究し、熊本の宝として未来に継承するとともに、文化財の災害対策 <u>およびその必要性を啓発する</u> 取組を推進します。	・新たな取組の方向性を追記
(4) 専門性を支える人材の確保	<u>ビジョンに掲げる事業を推進するために、日本古美術、日本近現代美術、東洋美術、西洋美術、日本史、教育普及などの各専門分野の学芸員等を配置します。</u>		・分野ごとの学芸員の配置を完了しているため、独立した項目としては削除し、専門性を高める取組みの一環として記載

	現行ビジョン	次期ビジョン	修正の考え方
(5) 専門性を高める取組み		(4) 専門性を高める取組み	
	学芸員等は自己研鑽や研修等を通して、業務に必要な知識や技術をはじめ資質の向上に努めるとともに、得た知識や技術等については館内外で共有し、美術館活動の質を高めていきます。	<u>ビジョンに掲げる事業を推進するために必要な人員を確保したうえで</u> 、学芸員等は <u>積極的に</u> 自己研鑽や研修参加等 <u>を行い</u> 、業務に必要な知識や技術をはじめとした <u>自身の</u> 資質の向上に努めるとともに、得た知識や技術等については館内外で共有する <u>ことで他の職員の資質向上にも努め</u> 、美術館活動の質を高めていきます。	・改正博物館法、くまもと新時代総合戦略の趣旨に沿って表現を追記（1③、2③）
3【地域活性化・交流促進】	(1) 熊本城周辺文化観光施設としての <u>活動</u>	(1) 熊本城周辺文化観光施設としての <u>地域の活力向上への寄与</u>	・改正博物館法の表現に修正（1④）
	熊本城内にあるという立地を活かし、近隣文化観光施設と連携したイベントを実施するとともに、地域の行事や熊本市の活動と連携して、熊本城周辺一帯の <u>魅力を高めま</u> す。また、ユニークベニュー（※）など施設の新たな活用を推進し、交流人口の拡大を図ります。	熊本城内にあるという立地を活かし、近隣文化観光施設と連携したイベントを実施するとともに、地域の行事や熊本市の活動と連携して、熊本城周辺一帯 <u>などの地域の活力の向上の取り組みに寄与</u> します。また、ユニークベニュー（※）など施設の新たな活用を推進し、交流人口の拡大を図ります。	・改正博物館法の表現に修正（1④）
(2) 団体集客の推進	<u>旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致を行います。</u> <u>特に、細川コレクションや当館所蔵コレクション展への教育旅行の誘致活動を更に進めます。</u> <u>また、</u> 民間事業者との広報協力、近隣施設利用者に対する当館割引券の配布、各団体の福利厚生事業での利用等を推進します。	民間事業者との広報協力、近隣施設利用者に対する当館割引券の配布、各団体の福利厚生事業での利用等を推進します。	旅行者全体に占める団体ツアーの割合が10%以下と低迷しており成果が見えにくいため、成果の見えやすい取り組みに整理。
4【環境・施設整備】			
(1)施設の適切な管理と快適な環境の整備	○ 安全・安心の確保 防災・防犯や危機管理対策を徹底し、安全・安心で快適な環境を整えます。	○ 安全・安心の確保 防災・防犯や危機管理対策を徹底 <u>すると同時に、すべての人にわかりやすいサイン表示などにより利用しやすく</u> 、安全・安心で快適な環境を整えます。	・具体的な取り組み内容を追記

	現行ビジョン	次期ビジョン	修正の考え方
	<p><u>○ ユニバーサルデザインの推進</u> 子どもや高齢者、障がい者、国内外からの観光客などの誰もが美術館を楽しめるよう多言語対応の充実、施設やサービスのユニバーサルデザインの推進に取り組みます。</p> <p>○ ミュージアムショップの充実 当館オリジナルグッズ、本県ならではのグッズ、美術や展覧会に関する書籍等の商品を充実させていきます。</p>	-	<p>・グローバル化・多文化共生社会への対応、幅広い年齢層が美術に親しむための取組み、安全安心の確保等の項目の取組み等と重複するため、個別の取組み項目としては削除</p>
		<p>○ ミュージアムショップの充実 当館オリジナルグッズ、本県ならではのグッズ、美術や展覧会への関心を高めるような商品を充実させていきます。</p>	<p>・取組の方向性を示す表現に修正</p>
(2)施設の有効活用	<p>数々の建築賞を受賞し、芸術性の高い建造物であるという当館の特性を活かし、<u>コンサート等</u>ユニークベニユーの取組みを推進します。</p>	<p>数々の建築賞を受賞し、芸術性の高い建造物であるという当館の特性を活かし、<u>様々な</u>ユニークベニユーの取組みを推進します。</p>	<p>・ユニークベニユーの実施の形態は多様であるため、表現を整理</p>
(4) 経営的視点による運営・管理	<p>○ 収益の向上等 集客力の高い展覧会の開催や貸会場の計画的な貸し出し、ミュージアムショップの利用促進により、収益の向上を図ります。 また、国や財団法人、民間企業等からの補助金や協賛金を得られるよう努めます。</p>	<p>○ 収益の向上、<u>外部資金（助成金・補助金・協賛金等）の活用等</u> 集客力の高い展覧会の開催や貸会場の計画的な貸し出し、ミュージアムショップの利用促進により、収益の向上を図ります。 <u>同時に、地域の文化芸術振興に資する展覧会に収益を活用します。</u> また、国や財団法人、民間企業等からの補助金や協賛金を得られるよう努めます。</p>	<p>・具体的な取組み内容を追記</p>
(5) ビジョンの指標と自己評価	<p><u>○ 美術館の利用者数</u> <u>観覧者の他、スクールミュージアム・ミュージアムパス・講演会や出張講座等の参加者、無料スペースの利用者なども含めた美術館の利用者数を増やすよう努めます。</u> <u>目標数：令和5年度総入館者数152,470人</u></p>	<p><u>○ 目標観覧者数の達成</u> <u>地域文化の新たな魅力を引き出す当館独自の自主企画展に加え、集客性のある展覧会を開催することなどで、利用者数を増やすよう努めます。</u> <u>※目標観覧者数：展覧会毎の想定入場数</u></p>	<p>・展覧会以外の利用者数の把握が困難であることに加え、展覧会ごとに集客できる人数も異なってくるため、取組みの成果をより正確に測る指標として各展覧会の想定入場数を目標として設定</p>
	<p>○ ビジョンに掲げた事業の<u>自己評価</u> 美術館協議会や来館者アンケートによる外部意見等を踏まえ、自己評価を実施し、<u>課題については改善を図っていきます。</u></p>	<p>○ ビジョンに掲げた事業の<u>実績確認</u> <u>本ビジョンの各項目の取組み実績について毎年度とりまとめ</u>、美術館協議会や来館者アンケートによる外部意見等を踏まえ、<u>明らかになった課題</u>の改善を図っていきます。</p>	<p>・自己評価の内容が実績確認と課題の改善であるため、取組内容を明確にする表現に修正</p>